

問題【国語】

下の各文の()の中に擬音語または擬態語を入れましょう。

- (1) 辺りは()と静まりかえっている。
- (2) 胃が()する。
- (3) 与一、鎚を取つてつがひ、よつ引ひいて()ど放つ。

豆知識 雑学コラム

奥深い「オノマトペ」

羊の鳴き声の「メーメー」や、雷の音を表す「ゴロゴロ」のように、聞こえてくるいろいろな音を描写した語のことを擬音語と言います。また、星の輝きを表す「キラキラ」や、煙が上がる様子を表す「モクモク」のように、具体的な音がしない状態を擬音語のように描写した語を擬態語と言います。この擬音語や擬態語をまとめて「オノマトペ」と呼びます。

「メーメー」や「キラキラ」と聞くと、何となく子どもっぽい言葉だと軽んじられやすい「オノマトペ」ですが、いろいろと奥が深い言葉なのです。例えば(1)の問題のように、音のない静けさを「しーん」というオノマトペで表しますよね。普段、日本語では当たり前のように使う言葉ですが、外国語には音のない状況を表すオノマトペがないことが多いです。「音がないことを表す音で外国語にはない表現」と聞くと「しーん」という何気無い言葉も不思議な言葉に思えてきませんか？ このように日本語は他の言葉にないオノマトペも多くあり、日本語は他の言語に比べ、オノマトペが多い言語だといえます。

「オノマトペ」を使うことで、いろいろな状況をより正確に描写できます。胃の状態を表す時に、吐き気を表す「むかむか」や断続的に痛む様子を表す「ずきずき」など、ただ「胃が痛い」だけでは伝わらない細かい痛みの状況が伝わりますよね。「むかむか」や「ずきずき」以外にも「ちくちく」や「きりきり」など痛さを表すオノマトペはたくさんあります。お医者さんや看護師さんはこうした言葉を理解して治療を行います。医療系と聞くと身体のことや薬のことなど理科の知識がたくさん必要だと思いますが、実は、患者さんの言葉から病状を知るために国語の知識も大切な職業なのです。

文学作品でも古くからオノマトペは使われています。平安時代の源平合戦の様子を描いた平家物語では、戦いの臨場感を出すためにオノマトペが多用されています。例えば(3)では、那須与一が矢を引いて放つ場面で「ヒョウ」というオノマトペが使われています。このようにオノマトペにも歴史があるんですね。

さて、岐阜では硬いことを「かんかん」ということがあります。これは実は方言なのです。このようにオノマトペには、時代、地域、さらに個人によって使い方が異なるものもあります。自分が使っているオノマトペを振り返ってみると、人と違った使い方をしているものなどが見つかるかもしれませんね。

【解答】

- (1) (シ) (2) (ク) (3) (ヒョウ)